

木材チップの換算係数

一般に統計処理等に用いられる換算件数は、針葉樹:2.2、広葉樹:1.7を採用。
市場における取引に用いられる換算係数は、産地、樹種及び季節等により相違。
近年、重量値による取引が一般化しているが、絶乾重量の算出には係数が必要。

【針葉樹チップ】

材積 (丸太換算) (m^3)	チップ用原木 生重量 (トン)	容積 (見掛容量) (m^3)	絶乾重量 (BDt)	パルプ収量 (トン)
1.0	0.8	3.0	0.5	0.2
1.3	1.0	2.4	0.4	0.2
0.3	0.2	1.0	0.1	0.1
2.2	1.8	6.6	1.0	0.5
4.8	3.8	14.4	2.2	1.0

【広葉樹チップ】

材積 (丸太換算) (m^3)	チップ用原木 生重量 (トン)	容積 (見掛容量) (m^3)	絶乾重量 (BDt)	パルプ収量 (トン)
1.0	1.3	3.0	0.6	0.3
0.8	1.0	2.4	0.5	0.2
0.3	0.4	1.0	0.2	0.1
1.7	2.1	5.1	1.0	0.5
3.7	4.6	11.1	2.2	1.0

- (注) 1 実際の取引に用いられる換算率は、地域、樹種、部位、品質等によって異なる。
2 見掛け容量は、トラックへの積み込み時の状況及び時間経過により異なる。
3 チップ用生重量は、樹種毎又は含水率によって異なる。
4 樹種毎の容積重(絶乾密度:BDt/ m^3)から材積(丸太換算: m^3)を導く場合は、絶乾重量の黒太枠(1.0と表記)の欄に容積重を置き換え、換算率を乗じて算出。
(ただし、気乾密度(約15%の水分を含む状態:Adt/ m^3)から算出する場合は、気乾密度に100/115を乗じて絶乾容積重(BDt/ m^3)を算定)

(出典) 丸太—絶乾重量換算値:林野庁「木材需給表」

見掛容積—丸太容積:全国本村チップ工業連合会編「木材チップ」(1987)

(各樹種の平均値を算定)

絶乾重量—パルプ収量:森林総合研究所監修「本材工業ハンドブック」(スギ、クリ他)

丸太—チップ用原木生重量:林野庁業務資料(業界聞き取り等の結果*)